様式２－２

１．実践校について

実践校名	（しんしゅうだいがくきょういくがくぶふぞくまつもとちゅうがっこう） 信州大学教育学部附属松本中学校	
学科名	生徒数	学級数
	４７７	１２

２．実践研究の対象

・総合的な学習の時間は、学級単位で年間を通して取り組む。
・生徒会活動は、全校生徒あるいは委員会ごとで取り組む。

３．実践研究の実施経過

＜平成 28 年度＞

４月　生徒の意識を把握するために、アンケートを企画実施
　　各学級の総合的な学習の時間の年間指導計画作成と発表
　　総合的な学習の時間の内容や方法について全校にオリエンテーション実施
５月　指導主事研修会において，総合的な学習の時間を公開（３年Ｃ組）
　　地域の課題、地域の伝統文化を学ぶ教員研修会の実施
６月　１学年全学級における総合的な学習の時間の授業研究会実施
　　（１年Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ組）
　　第１回社会参画推進委員会開催（２年度企画評価）
　　生徒会活動として梅取りと地域の方への販売
７月　先進的に実践している中学校及び地域の視察
10 月　文化祭にて、各学級の中間実践発表
　　生徒会による地球市民活動の実施
　　ユネスコスクールとしての取り組みについての全校集会の実施
11 月　生徒会による松本城清掃の実施
　　長野県連合教科研究会にて，３年生（３年Ｃ組）による実践発表
12 月　附属学校園幼・小・中教員による「総合を語る会」を実施
１月　総合的な学習の時間の研究授業実施（１年Ｃ組、２年Ｃ組）
　　２月　各学級で総合的な学習の時間の授業公開
２月　生徒に対するアンケート実施と分析
２月　福井大学ラウンドテーブルにて、本校の実践を発表
２月　第２回社会参画委員会開催（２年度実績評価）

４．実践研究の実施体制

本校の教育研究部（研究主任、事務局等）及び教科指導部（総合的な学習の時間係）が、研究の推進役となり、研究職員会にて、提案や実践を基にした研究協議を行う。

生徒会活動の場合は、生徒会係及び該当生徒会顧問が生徒主体の企画推進ができるように企画し、教員全体の協力体制のもと、全校で円滑に実施できるようにする。

また、行政関係者・PTA 関係者・教育委員・大学教員等から構成される「社会参画推進委員会」を設置し、地域企業やＮＰＯ法人、市役所政策課や観光課、商工会議所などと連絡調整や、地域・大学関係者と教員間の連携を図るとともに、専門的見地から企画について評価・検討を行う。これによって、実践研究の幅を広げるとともに、信州ラウンドテーブル､長野県連合教科研究会での発表などによる成果の一般化と波及を目指す。

５．教育委員会等として取り組んだ内容

平成 28 年度本校の総合的な学習の時間では、学級単位で学校周辺の地域の自然や社会事象、産業や伝統文化から題材を探し、課題や願いを見いだしてテーマを設定し、体験的に課題追究を行っている。

例えば、１年Ｃ組では、３年Ｃ組の「浅間温泉活性化」の取り組みを継承し、浅間温泉が抱える課題を解決していくための活動を展開している。２年Ｂ組では、「絵本」をテーマにし、地域の美術館において自分たちが制作した絵本を展示する会を企画したり、近隣の幼稚園、小学校に読み聞かせに出かけたりした。また、２年Ｃ組では、松本市が進める健康寿命延命都市の取り組みに関心をもち、食育や健康をテーマに活動を展開している。さらに、体育の授業で出会ったマレットゴルフの面白さを小学生に伝える活動などに取り組んだ。３年Ａ組では、地域の食材を生かしたお菓子づくりに取り組み、スイーツコンテストで入賞した。Ｂ組では、松本の伝統工芸である松本てまりを製作し長野市のびんずる市という場において販売し、松本市のよさを伝える活動に取り組んできた。Ｄ組が松本の良さを発信するための映画作りに取り組み、地域が主催する映画祭に出品し、優秀賞を受賞した。３年Ｃ組は、「信州松本・浅間温泉まちおこしＣ」の活動を昨年に引き続き取り組み、大きな成果を生み出している。その点については、課題解決プログラムの内容で詳細に述べていきたい。

以上のように本校では、生徒が主体となって、地域の課題を見いだし、その課題解決を図るために、友と協力して、地域住民、商工会や市役所などの助言をもらいながら、地域住民や地域社会とのつながりを大切にしてすすめている。

生徒会では、校内にある梅園から取れた梅を地域の方々に販売したり、全校奉仕活動として秋の半日を使って松本城周辺の木々の落ち葉の片づけを行ったりしている。さらに、ユネスコスクールとして生徒会が取り組む環境教育について２月に行われた信州ＥＳＤコンソーシアム総会において発表している。

成果の普及としては、10 月に行った信州ラウンドテーブルや長野県連合教科研究会における発表や１月に実施した総合的な学習の時間の授業の一般公開、福井大学で実施されているラウンドテーブルにおける実践発表等を行ってきている。参観者からは、多くの肯定的な感想をいただくことができた。

６．実践研究の評価等

（１）実践研究の実施状況についての自己評価

①地域社会とのつながりによる生徒の変化

・各学級において、地域とのつながりを意識した総合的な学習の時間が展開されてきている。また、地域社会との連携により、社会が直面している問題を解決していくために生徒が主体的に動き出す姿が見られている。

・実社会と接することにより生徒の表情が柔らかくなり、地域の方々に対する挨拶もこれまで以上に爽やかになってきている。

②学び合う教師集団の構築

・学級毎の実践内容を共有する場を設定したことにより互いの実践から学び合うことができ、教師の次への意欲に火がともされている。

・県内外への活動内容の発信をすることができ、レポートをまとめることで、自分たちの活動を見返すことができた。

（２）苦労した点

①　地域が抱える課題を知り、解決を図るための時間の確保

・地域の課題について、本校職員が市役所政策課や商工観光部、商工会議所など方に話を聞く研修会を開催する。

・伝統文化について、教員が教材研究を深められるように、地域の伝統文化に携わる方に協力いただいて体験する研修会を開催する。

②　ユネスコスクールとしての活動の充実

・生徒会活動として、地域に貢献する活動を全校や委員会で実践する。

・松本城清掃活動、梅取り販売などの活動実績に加え、新たに地域のニーズを探り、全校で　実施できるような地球市民活動を企画実践する。

③　研究の成果の発表と発信の場の工夫

・学級の総合的な学習の時間を本校で実施している研修プログラム等で公開する。

・ユネスコスクール活動における他校との交流をさらに充実させる。

④　総合的な学習の時間の全体計画を見直し、年間指導計画を作成する。

・既存の全体計画を主権者意識・社会参画の視点で見直して作成する。

・学級ごとに、総合的な学習の時間の年間の構想をたて、年間指導計画を作成する。教科横断的な学習場面を明確にする。

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：信州大学教育学部附属松本中学校

概要

総合的な学習の時間で、学級を母体とした教科横断的な探究学習活動を通じて、中学生が地域支援の担い手としての自覚を持ってその解決に取り組む等社会参画の実践力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

○実社会とつながり主体的に行動する態度
（例：浅間温泉の再興を目指して，自ら動き出して活動する姿）
○批判的思考力
（例：再興のためのプログラム作りの過程における問題解決を図る姿）
○未来像を予測した計画力
（例：浅間温泉の方の思いを汲み取りながら地域の方と協働して企画する姿）

学習プログラムの主な内容

①全校一斉による総合的な学習の時間ガイダンス（４月）
総合的な学習の時間主任より全校生徒に向けて、これまでの実践等を紹介しながら本校で目指している地域とのつながりを意識した総合的な学習の時間のあり方について説明を行った。

②総合的な学習の時間を通して何を学ぶのか，なぜ学級で３年間通して行うのか，その意味を考える時間の設定
各学年の実情に応じて総合的な学習の時間の意味を確認し合う時間を設定した。

③各学級で年間の見通しをもち、年間カリキュラムを作成
１年生は、これまで小学校でどんな総合を行ってきたか，それぞれの経験を語り合ったり，先輩の活動を聞いたりして，これからどのような活動をしていきたいか考えた。
２，３年生は、これまでの活動を確認し、これからの活動の見通しをもった。

④総合の立ち上がりの授業公開
１学年４学級の総合的な学習の時間の授業を公開し（６月）、学級でテーマを決めだしていくプロセスについて検討を行った。

⑤各学級の取組の共有
各学級でどのような活動を行っているかを簡潔にまとめたポスター等を教室や廊下に掲示し、各学級で行っている活動を共有することができるようにした。

⑥文化祭における各学級の中間実践発表

各学級で取り組んできた活動の展示と発表を行った。また、生徒会主催によるユネスコスクールとしての取組について語り合う全校集会を実施した。

⑦教員による「総合を語る会」情報交換会

幼・小・中附属３校園の連携を図ることを目的として，本校３年Ｃ組の取り組みを発表した。その後，連携の方向性や課題などをグループ別に話し合った。

⑧各学級で総合的な学習の時間の授業公開

最終の参観日において、各学級で取り組んできたこれまでの活動を保護者の方に報告し、意見や感想をいただいた。

⑨課題解決に向けた活動

地域の課題解決に向けて企画した内容を、様々な方々と協力して活動する。

⑩１年の振り返りを物語風にまとめる

教師がこれまでの活動を振り返り、学級の物語としてレポートにまとめていく。

学習プログラムの成果の概要

- 総合的な学習の時間における,実社会や地域とのつながりを意識したテーマ設定により，単なる体験や経験のみならず，その活動の中に，人と深くかかわっていくことで，発信する能力やコミュニケーション力，判断力等，これからの時代を生きていく上で必要な力も育んでいる。
- 自分たちが暮らす松本に対する愛着やそのよさを実感し､そこで生きる人たちの営みに関心を寄せて自分の生き方に結び付けている生徒の姿も見られるようになってきている。
- 総合的な学習の時間を核として､教科の学習においても生徒の主体的な取り組みが見られた。例えば、３年Ｃ組の「浅間温泉」に活動に寄せて、理科の学習では「イオンの学習」において浅間温泉の泉質と同じ入浴剤を作る授業を展開している。また､音楽の授業では浅間温泉をＰＲするためのＣＭづくりに挑戦している。こうした学習の中で、教科の力も向上してきている。
- 総合的な学習の時間は､学級活動や道徳との横断的な役割も担っている。学級総合の課題解決に向けた取り組みの過程で､多様な人との関わり方や物事を成し遂げていくときの折り合いのつけ方や計画の立て方などを現実社会との接点の中で､必要感に迫られる中で学んでいくことができる。これは社会の基盤と類似している。３年のＫ君は「うちの３Ｃは，一つの会社みたいだよね。目標に対して，みんなそれぞれ得意な分野を活かして成し遂げている」この言葉に表れているように，共通の課題に向かって立ち向かっていく力は，次第に学級としての力となり，個人としての資質や能力を育んでいくことにつながる｡中学生でも大人の社会を動かすことができるということを実感している生徒の姿も見られた。